

伊東深水是、江戸時代の肉筆浮世絵を源流とする美人画の代表的な日本画家として、大正時代から昭和にかけて活躍しました。

一方、関根正二は、大正時代に彗星のように現れ、世の注目を浴びながら、若干20歳の短い生涯をとじ大正期の天才画家と呼ばれました。

この二人は、あどけない少年時代に知り合い、共に深川で育ち、深い友情で結ばれていました。江東区森下文化センターでは、「日本画と洋画」「伝統と革新」「粋と激情」「熟成と夭折」という相反する生き方を見せた二人の芸術家の仕事をパネルで構成し、紹介いたします。



伊東深水

関根正二

明治

●明治31年(1898)
2月4日 現在の東京都江東区森下1丁目に生まれる。

●明治37年(1904) 6歳
深川尋常小学校（現在の江東区立深川小学校）に入学。

●明治44年(1911) 13歳
日本画家、鏑木清方に入門。深水の号を賜わる。

明治43年7月
(1910)

深水12歳・正二11歳
小名木川の水遊びで
知り合う

●明治32年(1899)
4月3日 現在の福島県白河市翫目に生まれる。

●明治41年(1908) 9歳
前年、東京に移った家族と共に、現在の江東区住吉に住む。深川区立東川尋常小学校（現在の江東区立東川小学校）に転入学する。

●大正3年(1914) 15歳
一時期疎遠だった伊東深水と再会。深水の紹介で東京印刷の図案部に給仕として採用される。

●大正4年(1915) 16歳
4月から7月にかけて東海・甲信越地方に放浪の旅にでる。長野で画家の河野通勢と知り合い、画集でデューラーやミケランジェロを知る。旅行中に描いた作品《死を思う日》が、第2回二科展で初入選。

大正

●大正3年(1914) 16歳
再興日本美術院展(院展)に初入選。

●大正5年(1916) 18歳
《対鏡》を試作する。新版画運動に共鳴し、版下絵の制作を行う。竹久夢二の旧宅（現在の渋谷区恵比寿）に転居。関根正二がたびたび訪れる。

湯気

大正13年(1924)
絹本着色 130×93cm
名都美術館蔵

第9回 郷土会出品作。
2年前に制作された《指》とならぶ深科大正期の代表作品。全体にぼんやりした雰囲気作風は、当時の院展を特徴づける朦朧体の影響が見られる。



二人が共に過ごした9年間

●大正5年(1916) 17歳
第3回二科展で入選。11月頃 渋谷の伊東深水の家で近所に住む画家上野山清貢を知る。

●大正6年(1917) 18歳
1月 祖母の死で白河に帰郷。7月 上野山清貢の妻で小説家の素木しづと知り合い、2年前の旅行の話をする。これが小説「転機」のモチーフとなった。9月 第4回二科展に入選。12月 村岡黑影を山形に訪ねる。

●大正7年(1918) 19歳
5月 文芸雑誌『文章世界』に挿絵を描く。有楽座で上演された久米正雄の「地蔵教由來」に農夫の一人として出演。また生田長江の「円光」の舞台絵を描く。この頃、奇行が目立つ。9月 第5回二科展で《信仰の悲しみ》《姉弟》《自画像》が入選、将来を嘱望される作家に送られる樗牛賞を受賞する。12月 スペイン風邪から肺炎を併発。

●大正8年(1919) 20歳
1月 肺炎が悪化し、床につく。6月 深川東町の自宅にて逝去。20歳2ヶ月の短い生涯だった。

昭和

●昭和2年(1927) 29歳
第8回帝展で特選受賞。以後帝展無鑑査。

●昭和11年(1936) 38歳
第1回文部省美術展覧会(新文展)に出品。帝展審査員となる。

●昭和18年(1943) 45歳
4~7月 海軍報道班員として南方へ派遣される。

●昭和23年(1948) 50歳
前年の日展出品作《鏡》で第4回日本芸術院賞を受賞。

●昭和33年(1958) 60歳
神奈川県立近代美術館で『伊東深水・中村琢二展』開催。この年、日本芸術院会員、社団法人日展理事となる。

●昭和45年(1970) 72歳
勲三等旭日中綬章を受章。

●昭和47年(1972) 74歳
3月2日 師・鏑木清方逝去、享年93歳。
5月8日 膀胱癌のため慶応病院にて逝去。

信仰の悲しみ

大正7年(1918)
油彩・カンヴァス 73×100cm
大原美術館蔵

第5回二科展に出品され、樗牛賞を受賞した関根正二の代表作品。関根が好んでもちいたヴァーミリオン(朱色)が女性の衣などに使われ、幻想的な雰囲気を出している。

